ドメインの設定

- ドメインの設定の概要 （1 ページ）
- ドメイン要件の構成 （4 ページ）
- ドメインのタスク フローの設定 （5 ページ）

ドメインの設定の概要

IM and Presence Domain ウィンドウに以下のドメインの種類が表示されます。

- 管理者が管理する IM アドレス ドメイン。これらは、手動で追加されたが、どのユーザにも割り当てられていない内部ドメインか、Sync Agent によって自動的に追加されたが、その後でユーザのドメインが変更されたために使用されていない内部ドメインです。
- システムが管理する IM アドレス ドメイン。これらは、ユーザが展開で使用し、手動または自動のいずれでも追加できる内部ドメインです。

ドメインが **[IM and Presence Domain（IM and Presence ドメイン）]** ウィンドウに表示されている場合は、ドメインは有効になっています。ドメインを有効化する必要はありません。ローカル IM アドレス ドメインは、手動で追加、更新、削除が可能です。

2 台のクラスタに設定されているドメインを持つことができますが、ピア クラスタだけで使用する必要があります。これは、ローカル クラスタ システム管理ドメインとして表示されますが、ピア クラスタだけで使用中であると識別されます。

CiscoSync Agent サービスが夜間監査を実行し、ローカル クラスタ、およびクラスタ間が設定されている場合はピア クラスタの各ユーザのディレクトリ URI を確認して、一意のドメインのリストを自動的に構築します。クラスタ内のユーザがそのドメインに割り当てられると、管理者管理ドメインからシステム管理ドメインに変更されます。クラスタ内のユーザがドメインを使用しなくなった場合は、ドメインは管理者管理のドメインに戻ります。

ドメイン設定例

Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service は、任意の数の DNS ドメインへの柔軟なノード展開をサポートします。この柔軟性をサポートするには、展開内のすべての

IM and Presence Service ノードにそのノードの完全修飾ドメイン名（FQDN）に設定されたノード名が必要です。以下の IM and Presence Service 向けノード展開オプションの例を説明します。

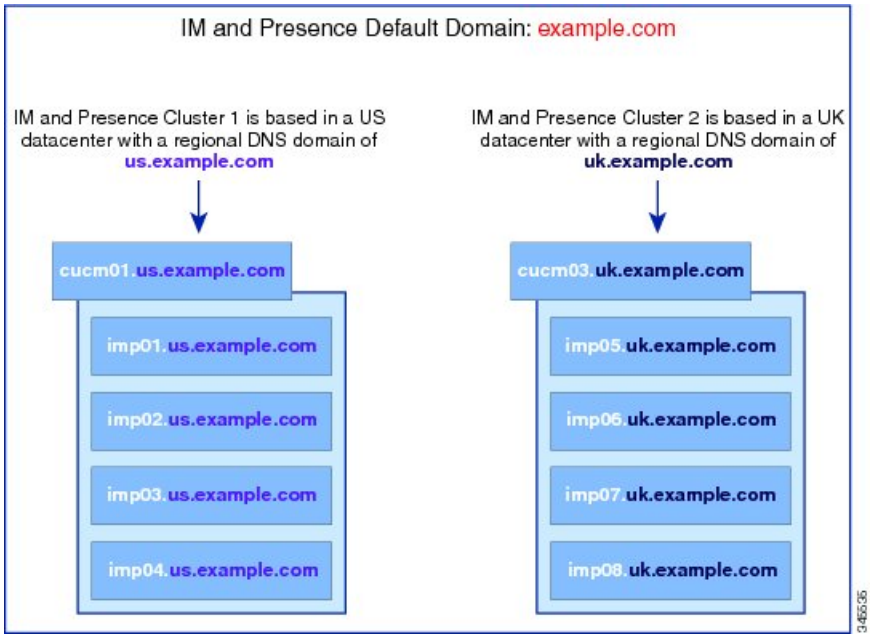
- 別々の DNS ドメインおよびサブドメインを持つ複数の DNS ドメイン
- 別々の DNS ドメインおよびサブドメインを持つ単一クラスタ
- DNS ドメインが Unified Communications Manager のドメインと異なる単一クラスタ

（注） ある IM and Presence Service ノード名がホスト名だけに基づいている場合、すべての IM and Presence Service ノードが同じ DNS ドメインを共有する必要があります。

システムによって、IM and Presence Service のデフォルト ドメインまたは DNS ドメインと一致するように設定される他の IM ドメインは必要はありません。IM and Presence Service 展開に共通のプレゼンス ドメインを配置し、ノードを複数の DNS ドメインに展開することができます。

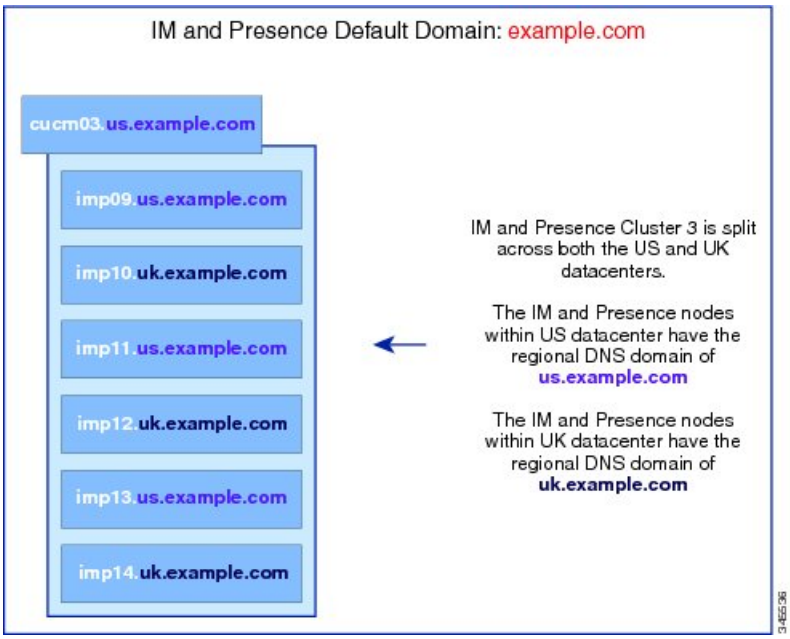
別々の DNS ドメインおよびサブドメインを持つ複数の DNS ドメイン

IM and Presence Service は、ピアの IM and Presence Service クラスタを構成するノードとは異なる DNS ドメインまたはサブドメイン内の 1 つの IM and Presence Service クラスタに関連付けられたノードをサポートします。次の図に、サポートされている展開シナリオの例を示します。



別々の DNS ドメインおよびサブドメインを持つ単一クラスタ

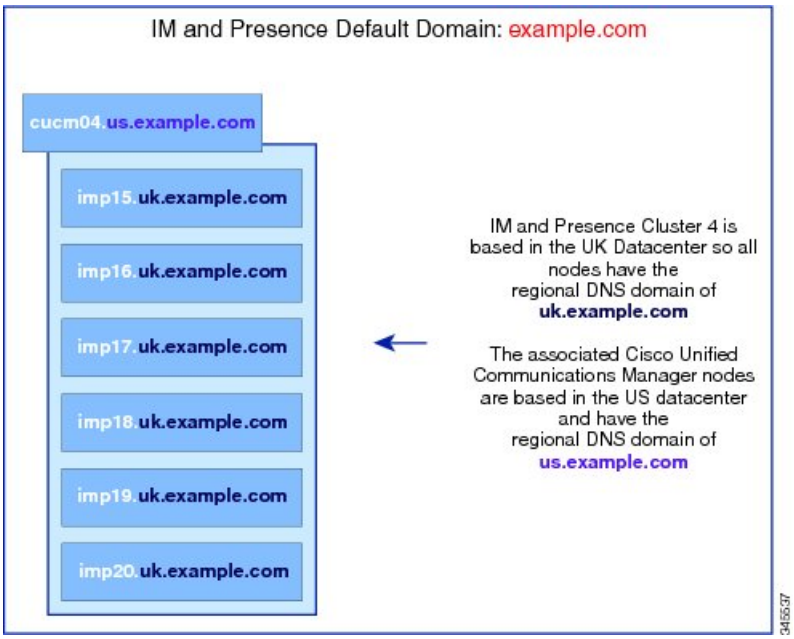
IM and Presence Service は、複数の DNS ドメインまたはサブドメインに展開された IM and Presence Service クラスタ内へのノードの配置をサポートします。次の図に、サポートされている展開シナリオの例を示します。



（注） 高可用性は、プレゼンス冗長グループ内の 2 台のノードが別々の DNS ドメインまたはサブドメインにあるシナリオでも完全にサポートされます。

DNS ドメインが Unified Communications Manager のドメインと異なる単一クラスタ

IM and Presence Service は、関連する Cisco Unified Communications Manager クラスとは異なる DNS ドメインへの IM and Presence Service ノードの配置をサポートします。次の図に、サポートされている展開シナリオの例を示します。



（注） Cisco Unified Communications Manager とのアベイラビリティ統合をサポートするには、**CUCM Domain** の SIP Proxy サービス パラメータが Cisco Unified Communications Manager クラスタの DNS ドメインと一致する必要があります。

デフォルトでは、このサービス パラメータは IM and Presence データベース パブリッシャ ノードの DNS ドメインに設定されています。IM and Presence データベース パブリッシャ ノードの DNS ドメインが Cisco Unified Communications Manager クラスタの DNS ドメインと異なる場合、Cisco Unified Communications Manager のドメインを使用するようにこのサービス パラメータを編集する必要があります。

ドメイン要件の構成

- この機能を使用するには、IM and Presence Service および Cisco Unified Communications Manager のすべてのノードおよびクラスタが複数のドメインをサポートする必要があります。IM and Presence Service クラスタ内のすべてのノードが Release 10.0 以降を使用して実行していることを確認します。
- アドレス用ディレクトリ URI が設定されていることを確認します。詳細については、http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html で、*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager* システム設定ガイド の「URI ダイヤリングの設定」を参照してください。

ドメインのタスク フローの設定

IM and Presence Service 向けにドメインを設定するには、このタスクを完了します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	高可用性の無効化 （6 ページ）	[高可用性] が有効化されている場合は、無効にします。デフォルト ドメインを変更する場合は、一時的にサービスを停止する必要があります。高可用性が有効のままサービスを停止すると、システム フェールオーバーが発生します。
ステップ 2	IM and Presence Services の無効化 （6 ページ）	ドメインを変更する前に、重要なサービスを停止させます。
ステップ 3	IM and Presence Service のデフォルト ドメインの設定 （7 ページ）	IM and Presence Service クラスタ のデフォルト ドメインの値を設定します。この手順は、DNS および非 DNS 展開で適用可能です。
ステップ 4	以下のタスクを実行 • IM アドレス ドメインの追加または更新 （8 ページ） • IM アドレス ドメインの削除 （9 ページ）	オプション。ローカル クラスタの管理者管理のドメインを追加、編集、削除するときのみ、このタスクを実行します。
ステップ 5	XMPP クライアントおよび TLS 証明書の再生成 （10 ページ）	TLS XMPP 連携を使用している場合、新しい XMPP クライアントおよび TLS 証明書を生成する手順に進みます。
ステップ 6	IM and Presence Services の起動 （11 ページ）	ドメインの設定が完了したら、サービスを再起動します。
ステップ 7	プレゼンス冗長グループに対する高可用性の有効化 （12 ページ）	高可用性が設定されていた場合、再度有効にします。 （注） 高可用性を有効にする前に、再起動したサービスがすべてのクラスタ ノードで稼働しているかを確認します。

高可用性の無効化

高可用性が設定されている場合、デフォルト ドメインを設定する前に、各プレゼンス冗長グループにおいて高可用性を無効にしなければなりません。デフォルト ドメインのサービスを停止する際に、高可用性が有効になっている場合、フェイルオーバーが発生します。

始める前に

各プレゼンス冗長グループの各クラスタ ノードのアクティブ ユーザ数を記録します。この情報は、Cisco Unified CM IM and Presence の（**System** > **Presence Topology**）ウィンドウに表示されます。この番号は、後に高可用性を再度有効にする際に必要となります。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration のユーザ インターフェイスから、**[システム（System）] > [プレゼンス冗長グループ（Presence Redundancy Groups）]** を選択します。

ステップ 2 **検索**をクリックして、グループを選択します。

ステップ 3 [プレゼンス冗長グループの設定（Presence Redundancy Group Configuration）] ウィンドウで、[高可用性を有効にする（Enable High Availability）] チェックボックスをオフにします。

ステップ 4 [保存（Save）] をクリックします。

ステップ 5 各プレゼンス冗長グループに対して、この手順を繰り返します。

ステップ 6 完了後、さらに変更を行う前に、新しい HA 設定がクラスタ全体にわたって同期されるまで、少なくとも 2 分待機します。

次のタスク

IM and Presence Services の無効化 （6 ページ）

IM and Presence Services の無効化

この手順を使用して、デフォルト ドメインに変更を加える前に、IM and Presenceのサービスを停止します。クラスタ内のすべてのノードでこの手順を実行します。

始める前に

高可用性が無効になっていることを確認します。詳細については、高可用性の無効化 （6ページ）を参照してください。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ（Cisco Unified IM and Presence Serviceability）] から、**[ツール（Tools）] > [コントロールセンタ-ネットワークサービス（Control Center - Network Services）]** を選択します。

ステップ 2 [サーバ（Server）] リストから、サービスを非アクティブ化するノードを選択し、[移動（Go）] をクリックします。

ステップ 3 **IM and Presence Services** のエリアで、以下のサービスが開始されていることを確認します。

- **Cisco Client Profile Agent**
- **[Cisco Sync Agent]**
- **Cisco XCP ルータ**

ステップ 4 [Stop] をクリックします。

ステップ 5 [関連リンク（Related Links）] ドロップダウン リストから [サービスのアクティブ化（Service Activation）] を選択し、[移動（Go）] をクリックします。

ステップ 6 **IM and Presence Services** のエリアで、以下のサービスが開始されていることを確認します。

- **Cisco SIP Proxy**
- **[Cisco Presence Engine]**

ステップ 7 **[保存（Save）]** をクリックします。

ステップ 8 これらのサービスを無効にしたすべてのノードのリストを作成します。デフォルト ドメインの変更が完了したら、サービスを再起動する必要があります。

次のタスク

IM and Presence Service のデフォルト ドメインの設定：

- IM and Presence Service のデフォルト ドメインの設定 （7 ページ）

あるいは、デフォルト ドメインがすでに設定されている場合、このタスクのいずれかを使って、ドメインの追加または削除を行います。

- IM アドレス ドメインの追加または更新 （8 ページ）
- IM アドレス ドメインの削除 （9 ページ）

IM and Presence Service のデフォルト ドメインの設定

この手順を使って、IM and Presence Service クラスタ のデフォルト ドメインの値を設定します。DNS または非 DNS 展開が存在する場合、この手順を適用できます。

この手順では、IM and Presence Service のクラスタのデフォルト ドメインだけを変更します。そのクラスタ内のすべての IM and Presence Service ノードに関連付けられている DNS ドメインは変更されません。IM and Presence Service ノードの DNS ドメインを変更する方法の手順については、http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.htmlの *Cisco Unified Communications Manager* および *IM and Presence Service* の *IP* アドレスおよびホスト名の変更 を参照してください。

（注） Cisco Unified Communications Manager に IM and Presence Service パブリッシャのノードを追加すると、デフォルト ドメインが設定されます。ノードのインストール中、Cisco Unified Communications Manager からデフォルト ドメイン 値が取得できない場合、デフォルト ドメイン値は「DOMAIN.NOT.SET（DOMAIN.NOT.SET）」にリセットされます。IM and Presence Service のデフォルト ドメイン値を有効なドメイン値に変更するには、この手順を使用します。

始める前に

高可用性が無効になっていて、重要なIM and Presence Services が停止されていることを確認します。詳細は、IM and Presence Services の無効化 （6 ページ）を参照してください。

手順

ステップ 1 IM and Presence Service のパブリッシャ ノードにログインします。

ステップ 2 **Cisco Unified CM IM and Presence 管理**で **プレゼンス** > **設定** > **詳細設定** を選択します。

ステップ 3 **[Default Domain（デフォルト ドメイン）]** を選択します。

ステップ 4 **[Domain Name（ドメイン名）]** フィールドに、新しいプレゼンス ドメインを入力し、**[Save（保存）]** を選択します。

システム アップデートは完了まで最長で 1 時間かかる場合があります。アップデートに失敗すると、**[Re-try（再試行）]** ボタンが表示されます。変更を再適用するには、**[Re-try（再試行）]** をクリックします。または **[Cancel（取消）]** をクリックします。

次のタスク

TLS XMPP 連携を使用している場合、XMPP クライアントおよび TLS 証明書の再生成 （10 ページ）に進みます。

IM アドレス ドメインの追加または更新

管理者管理のドメインをローカルクラスタ上に追加または編集することができます。別のクラスタに関連付けられたシステム管理ドメインまたは管理者によって管理されるドメインは編集できません。

システム管理ドメインが使用中であるため、編集できません。IM アドレス ドメインを持つシステムでユーザが設定されていない場合（たとえば、ユーザが削除された場合）、システム管理ドメインは自動的に管理者の管理ドメインになります。管理者の管理ドメインを編集または削除できます。

始める前に

高可用性が無効になっていて、重要なIM and Presence Services が停止されていることを確認します。詳しくは IM and Presence Services の無効化 （6 ページ）

手順

ステップ 1 **Cisco Unified CM IM and Presence 管理**で、**プレゼンス** > > **ドメイン**を選択します。

すべての管理者の管理 IM アドレス ドメインとシステム管理 IM アドレス ドメインを表示する **[Find and List Domains（ドメインの検索と一覧）]** ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの操作を実行します。

- [Add New（新規追加）] をクリックすることで、新しいドメインを追加します。[Domains（ドメイン）] ウィンドウが表示されます。
- ドメインのリストから編集するドメインを選択します。[Domains（ドメイン）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 最大 255 文字の一意なドメイン名を [Domain Name（ドメイン名）] フィールドに入力し、[Save（保存）] をクリックします。

各ドメイン名は、クラスタ内で一意である必要があります。指定できる値は、すべての大文字または小文字（a-zA-Z）、すべての番号（0-9）、ハイフン（-）、またはドット（.）です。ドメイン ラベルの区切り文字はドットです。ドメイン ラベルの先頭文字をハイフンにすることはできません。最後のラベル（たとえば、.com）の先頭文字を数字にすることはできません。たとえば、Abc.1om は無効なドメインです。

次のタスク

TLS XMPP 連携を使用している場合、XMPP クライアントおよび TLS 証明書の再生成 （10 ページ）に進みます。

IM アドレス ドメインの削除

Cisco Unified CM IM and Presence の管理 GUI を使用して、ローカル クラスタにある管理者の管理 IM アドレス ドメインを削除できます。

システム管理のドメインは使用中であるため、削除できません。その IM アドレス ドメインのシステムにユーザが存在しない場合（たとえば、ユーザが削除された場合）、システム管理ド

メインは自動的に管理者の管理ドメインになります。管理者の管理ドメインを編集または削除できます。

（注） ローカル クラスタとピア クラスタの両方で設定されている管理者が管理するドメインを削除した場合、そのドメインは管理者が管理するドメインのリストに残ります。ただし、そのドメインには、ピア クラスタでのみ設定されているというマークが付けられます。エントリを完全に削除するには、ドメインが設定されているすべてのクラスタからドメインを削除します。

始める前に

高可用性が無効になっていて、重要なIM and Presence Services が停止されていることを確認します。詳細は、IM and Presence Services の無効化 （6 ページ）を参照してください。

手順

ステップ 1 **Cisco Unified CM IM and Presence 管理**で、**プレゼンス** > **ドメイン**を選択します。

すべての管理者管理の IM アドレス ドメインおよびシステム管理 IM アドレス ドメインを表示する **ドメインの検索/一覧表示** ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次の方法の 1 つを使用して削除する管理者の管理ドメインを選択し、次に **[Delete Selected（選択項目の削除）]** をクリックします。

- 削除するドメインの横のチェックボックスをオンにします。
- 管理者の管理ドメインのリストのドメインをすべて選択するには、**[Select All（すべてを選択）]** をクリックします。

ヒント　すべての選択をクリアするには、**[Clear All（すべてクリア）]** をクリックします。

ステップ 3 **[OK]** をクリックして削除を確認するか、**[Cancel（キャンセル）]** をクリックします。

次のタスク

TLS XMPP 連携を使用している場合、XMPP クライアントおよび TLS 証明書の再生成 （10 ページ）に進みます。

XMPP クライアントおよび TLS 証明書の再生成

IM ドメインに変更を加えたら、XMPP クライアントまたは TLS 証明書を再生成する必要があります。

手順

ステップ 1 **Cisco Unified CM IM and Presence OS 管理**で、**セキュリティ** > **証明書管理**を選択します。

ステップ 2 **検索**をクリックして、証明書の一覧を開きます。

ステップ 3 **cup-xmpp-s2s**証明書をクリックします。

ステップ 4 **証明書の詳細**ウィンドウで、**再生成**をクリックします。

IM and Presence Services の起動

デフォルト ドメインに変更を加えた後、この手順で、すべてのクラスタ ノード上で IM and Presence Service を再起動します。

始める前に

XMPP クライアントおよび TLS 証明書の再生成 （10 ページ）

手順

ステップ 1 [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ（Cisco Unified IM and Presence Serviceability）] から、**[ツール（Tools）]** > **[コントロールセンタ-ネットワークサービス（Control Center - Network Services）]** を選択します。

ステップ 2 [サーバ（Server）] リストから、サービスを再アクティブ化するノードを選択し、[移動（Go）] をクリックします。

ステップ 3 **IM and Presence Services** のエリアで、以下のサービスを選択します。

- **Cisco Client Profile Agent**
- **Cisco Sync Agent**
- **Cisco XCP Router**

ステップ 4 [再起動（Restart）] をクリックします。

ステップ 5 [関連リンク（Related Links）] ドロップダウン リストから [サービスのアクティブ化（Service Activation）] を選択し、[移動（Go）] をクリックします。

ステップ 6 **IM and Presence Services** のエリアで、以下のサービスを選択します。

- **Cisco SIP Proxy**
- **[Cisco Presence Engine]**

ステップ 7 **[保存 (Save)]** をクリックします。

次のタスク

プレゼンス冗長グループに対する高可用性の有効化 （12 ページ）

プレゼンス冗長グループに対する高可用性の有効化

デフォルト ドメインを変更し、IM and Presence Service を再起動した後で、プレゼンス冗長グループの高可用性を有効にすることができます。

始める前に

高可用性を有効化する前に、すべてのサービスが IM and Presence データベース パブリッシャ ノードおよびサブスクライバ ノードで稼働していなければなりません。サービスが再起動してから30分以内の場合は、高可用性を有効にする前に Cisco Jabber セッションが再作成されたことを確認します。十分な時間を確保しない場合、セッションが作成されていない Jabber クライアントでプレゼンスは機能しません。

Cisco Jabber セッションの数を取得するには、すべてのクラスタ ノードで `show perf query counter "Cisco Presence Engine" Active JsmSessions` CLI コマンドを実行します。アクティブ セッションの数は、高可用性を無効にした際に記録したユーザ数と一致するはずです。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration のユーザ インターフェイスから、**[システム（System）] > [プレゼンス冗長グループ（Presence Redundancy Groups）]** を選択します。

ステップ 2 **検索**をクリックして、グループを選択します。
プレゼンス冗長グループの設定 ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 **高可用性の有効化**のチェックボックスをチェックします。

ステップ 4 **[保存（Save）]** をクリックします。

ステップ 5 この手順を、各プレゼンス冗長グループに対して繰り返します。